

1999 年度 11 月祭環境対策委員会活動報告

11 月祭において環境対策活動をする目的としては、主に次の 2 つがあります。

- 1) 実質的なごみの削減を行うことによって、環境負荷の少ない 11 月祭を目指す。
- 2) 学園祭を一つのきっかけとして、学生や一般の方々にもごみ問題について考えてもらうきっかけをつくる。

以上のような目的を達成するため、京都大学 11 月祭では、1994 年度より「11 月祭環境対策委員会」が設置され、11 月祭事務局や 11 月祭参加者と連携し、環境対策活動を進めています。

1999 年度の 11 月祭では、次のような活動を行いました。

1) 洗い皿

現在では、各地の大学で行われていますが、全国で初めて「洗い皿」を導入したのは京都大学です。洗い皿とは、使い捨て容器の代わりに普通の食器を模擬店に貸し出して、その食器を洗って何度も利用することで、使い捨て容器によるごみを減らすものです。食器を洗う人員は模擬店から出してもらいます。食器は京都大学生協同組合吉田食堂の業務用洗浄機で洗浄しますので衛生的にも安心です。1999 年度は 21 の模擬店に貸し出し、約 6,460 枚の使い捨て容器削減に寄与しました。また、1999 年度からは新たに箸も購入し、3 つの模擬店で利用してもらいました。

2) 容器や食材の提案

模擬店に対し、企画段階でメニューに適した容器はどれか、より環境に配慮した容器はどれか、適切な食材の購入量などを過去の調査に基づく資料とともに提案しました。

3) ごみ箱の設置とごみ分別

ごみの分別状況を左右するのが、ごみ箱です。お客さんが捨てやすいように工夫してごみ箱を製作し、会場内 26 カ所に設置しました。ごみ箱のごみ袋の交換は、環境対策委員と模擬店の人で協力して行いました。

今年度は、お客さんに対しては 6 種類の分別をお願いしました。

- ・可燃ごみ(紙類)
- ・不燃ごみ(プラスチック、ビニール類)
- ・かん&びん かん&びんにリサイクルされます
- ・発泡スチロールトレイ プラスチック製品にリサイクルされます
- ・割り箸 製紙原料としてリサイクルされます
- ・生ごみ 堆肥化されます

また、模擬店に対しては 10 種類の分別をお願いしました。

- ・可燃ごみ(紙類)
- ・不燃ごみ(プラスチック、ビニール類)

・かん&びん	かん&びんにリサイクルされます
・PET ボトル	再生 PET としてリサイクルされます
・発泡スチロールトレイ	プラスチック製品にリサイクルされます
・割り箸	製紙原料としてリサイクルされます
・生ごみ	堆肥化されます
・廃食用油	石鹼などにリサイクルされます
・段ボール	再生紙としてリサイクルされます

4)発泡スチロールトレイのリサイクル

模擬店の人たちに洗ってもらった発泡スチロールトレイを分別回収することで、約 7,300 枚の発泡スチロールトレイをリサイクルしました(昨年度より実施率向上)。

5)割り箸のリサイクル

分別回収した割り箸 26,800 膳を愛知県春日井市の製紙工場に送り、製紙原料としてリサイクルしました。割り箸のリサイクルは 1997 年度より行われています(昨年度より実施率向上)。

6)生ごみの堆肥化

模擬店の調理や食べ残しとして排出される生ごみに、米ぬかと EM 菌を混ぜることにより、堆肥としてリサイクルしました。堆肥は学内の有機農業研究会で利用してもらったり、中庭に戻すなどしました。

1999 年度に堆肥化された生ごみの量は約 602kg であり、昨年度の約 1.7 倍となり再資源化率が高まりました。

7)本部構内における皿貸し出し

本部構内において来場者に直接お皿を貸し出すことにより、容器ごみ削減を目指しました。

8)教室展示企画

総合人間学部 1 号館 1B08 講義室において展示を行いました。

11 月祭のごみがどのようなものか、リサイクルについてなどの展示をしました。展示物の一部は滋賀県環境生活協同組合や京都市環境局環境事業部リサイクル推進課の協力を得ました。

9)環境調査

来場者に対する環境アンケート、模擬店に対する食材・容器購入・廃棄量調査、ごみ総量調査、ごみ組成調査、模擬店実態調査を実施しました。結果は報告書をご覧ください。